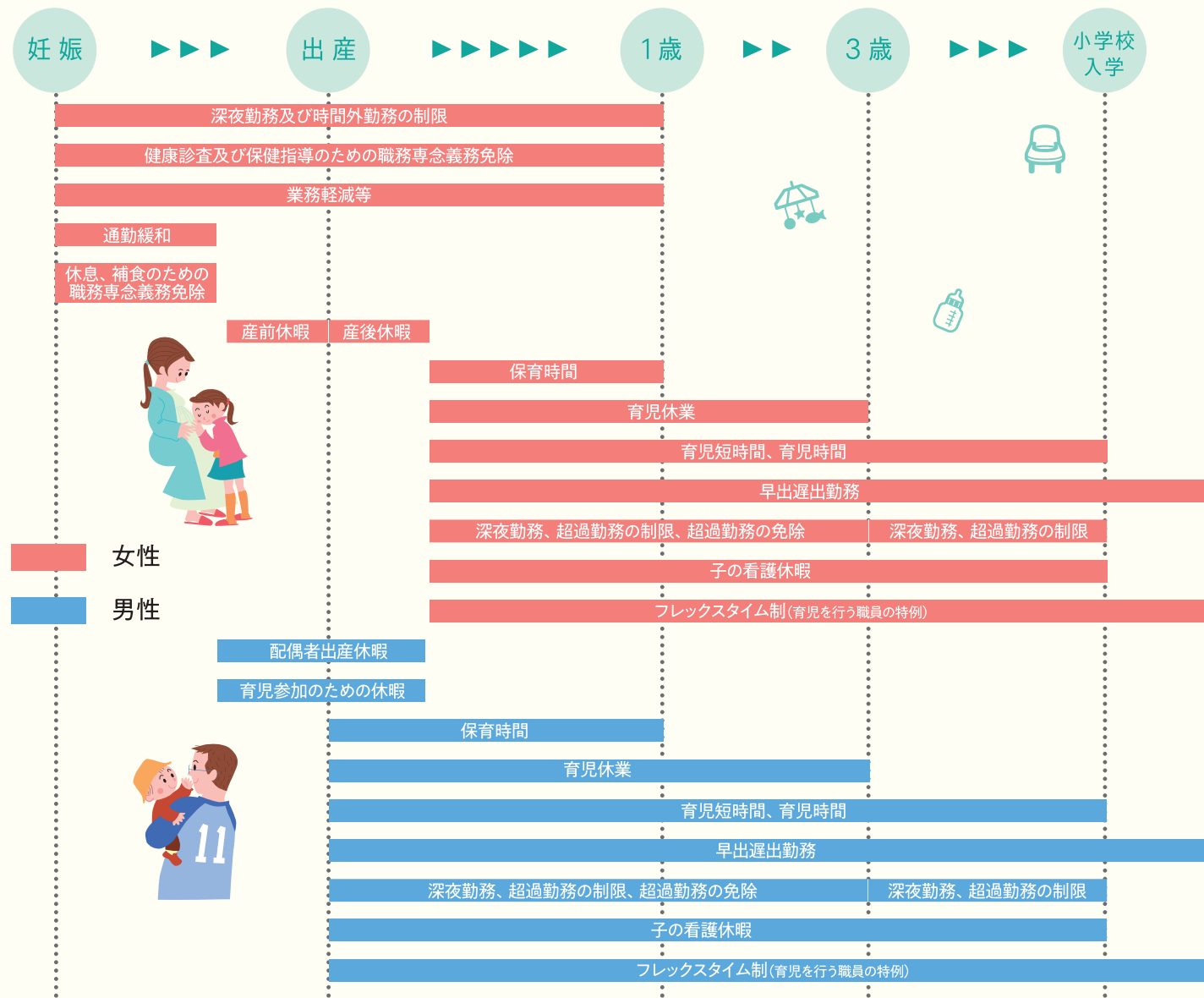


ワークライフバランス

中部地方整備局では、ワークライフバランスを推進し、男性も女性もともに働きやすい職場となるように、育児や介護等と両立して活躍できる勤務環境の整備に取り組んでいます。

仕事と育児の両立を支援するために整備されている様々な制度



※上記の他にも、不妊治療と仕事の両立を支援するための「出生サポート休暇」の制度もあります。

利用した制度、制度の利用時期・期間

①育児休業／H25.7.1～H25.9.30 ②育児休業／H29.10.23～H29.12.28



平成16年度入省／行政
越美山系砂防事務所
総務課
係長

酒井 俊輔

私が育児休業を取得したきっかけは、2人目の子が単身赴任中に生まれ、子どもと過ごす時間を確保するためでした。また、3人目の時には、妻の復職に支障無いよう入れ代わりで取得しました。2人目の時は、後で「整備局で男性の育児休業取得は初めて」と聞きましたが、周囲から否定的な意見は聞かえず、ありがたかったです。3ヶ月程度職場から離れる事で、育児に専念している事を実感できました。出産から育児休業をしていた妻と同様に過ごした事で、今も続く子育てを2人で考える事に繋がっていると思います。現在はフレックス制度で終業を早めたり、テレワークを活用しています。「男性の育児参加」と言われますが、参加ではなく、父親も育児の主体者です。でも、1人や夫婦だけで全部しなきゃと思わず、身内、友人、サークル、自治体、職場…色々な人や制度に頼りながら、何が出来るかを考える事で、両立も見えてくると思います。

利用した制度、制度の利用時期・期間

①育児休業／R1.9～11(期間3ヶ月)



平成25年度入省／土木
木曽川下流河川事務所
管理課
係長

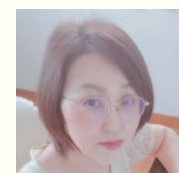
橋本 一輝

私は1人目の子供で、妻と一緒に育児を頑張っていきたいと思い育児休業を3ヶ月取得しました。職場から育児休業を取るにあたり、否定的な反応はなく、頑張れ!と応援して頂きました。育児休業を取得して良かったことは、育児の大変さを実感することができたことです。抱っこしても寝てくれない、1～2時間で起きるため全然眠れない、初めてのことばかりでうまくいかない等、本当に大変な3ヶ月間でした。仕事は大事ですが、家族はもっと大事です。

女性のみならず男性でも育児時間等の制度を取得できる寛容な職場環境であると思いますので、男性が制度を利用して育児の経験を少しでも多くした方がいいと思います。私は、今後も制度をうまく活用して、仕事も一生懸命に、育児も大切にしながら毎日を過ごしていきたいです。

女性職員の活躍

近年、女性の活躍がめざましいなか、当局では女性職員が年々増加しているとともに、性別に関係なく活躍できる場が広がっています。中部地方整備局の女性の働く割合は40歳未満で事務系職員が約40%、技術系職員が約20%です。技術系職員はまだ少ないように見えますが近年1～5年目の技術系職員は約30%を占めています。技術系職員で入省しても家庭と両立しながら活躍している女性職員もたくさんいるので技術系の女性の方でも安心して入省できます。県域を越えたスケールの大きいインフラ事業や防災事業など“中部の未来”へ、そして“日本の未来”へつなげる仕事を私たちと行いませんか？



昭和62年度入省／行政
総務部人事課
課長補佐

松田 千景

私は現在、総務部人事課でワークライフバランスを確立するための取り組みや、研修計画を立案する仕事をしています。今は3人の子供達も手が離れ、テレワークを活用しながら、義母の介護と仕事を両立させて、やりがいを持って毎日を送っています。

妊娠・出産・育児そして介護など、仕事と両立していく上で悩むことも多いかと思います。しかし、中部地整では大勢の職員が家庭と仕事を両立しながら働いています。制度はもちろん整っていますが、それ以上に、その制度が使いやすくそして相談しやすい職場環境が整っているからだと思います。男性、女性にかかわらず、やりがいを持って退職まで働ける職場だと思います。是非一緒に働いてみませんか。

新しい働き方

中部地方整備局では、テレワークやフレックスタイム制を活用した「新しい働き方」に取り組んでいます。ライフスタイルにあった働き方ができるテレワークやフレックスタイム制を活用することで、職員一人一人にとって働きやすくなるような職場を目指しています。



平成16年度入省／行政
総務部人事課
係長

櫻井 美里

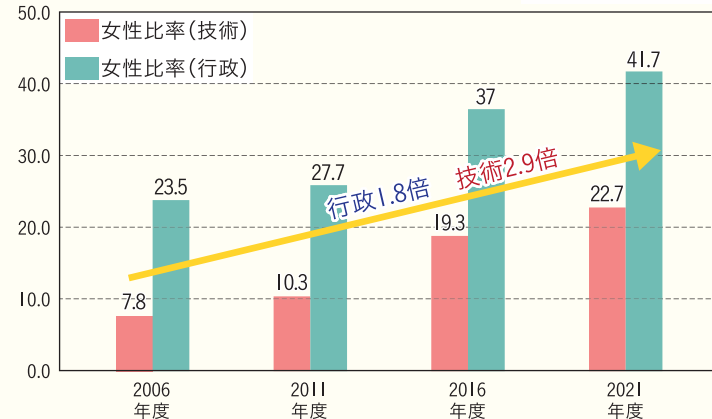
私は職場パソコンの貸与を受け、週1回テレワークを行っています。テレワークで浮いた時間は、ウォーキングなど自分時間や子供と向き合う時間として活用しています。「今日はお母さんテレワークだね!」と子供が保育園からの帰宅を楽しみにしてくれ、子供も私も嬉しい働き方になっています。

私の業務は職員からの問い合わせが多く、テレワーク時はメールの量が増えることが悩みですが、データ整理や考える作業は集中して行え、効率よく作業できていると感じています。また朝夕でWEB打合せを上司や同僚と実施し、自宅に居ながら職場の状況もわかるので、安心して業務を進めることもできます。今後はテレワーク時に休憩時間の追加を利用し、子供の習い事の送迎時間を生み出す計画でいます。数年前には考えられなかった働き方ができる環境に感謝しつつ、毎日楽しく仕事をしています。

国家公務員を目指す
女性へのメッセージはこちら



(%) 40歳未満職員における女性比率の推移



平成23年度入省／農業土木
北勢国道事務所 計画課
係長

築地 静

5歳の息子を夫婦で育てながら、自宅から近い事務所で道路計画・予算管理の仕事をしています。道路は人々の暮らし、救命、経済活動のために不可欠で、道路の計画的な整備・維持管理に携わる責任とやりがいを感じています。忙しい毎日ですが、周りに支えられて母親と仕事の両立ができています。もちろん多くの女性職員が活躍しています。分かりやすく見栄えする説明資料の作成、細やかな視点からのチェック・パトロールなど、土木の世界でも女性の感性が求められる時代です。私自身、テレビ出演や開通式典の司会といった華やかな出番をいただいたことも!先日、所属の課で登山に行きました。先導してもらい、時にペースを合わせてもらい、激励してもらって皆で登頂し、振り返ると達成感と楽しい思い出ばかりが残っています。仕事に似ています。私も地整を先導できる職員になれるよう頑張ります。中部地整の仲間、募集してます!



平成8年度入省／土木
企画部企画課
係長

飯岡 祐介

テレワークを実施したことにより、生活の面ではまず通勤時間について家事など家族のために使う時間が増えました。朝は妻と子供の朝食づくりや洗濯など家事を行い、また通勤時間が無い事で、フレックス(時差出勤)を併用することにより、始業時間及び終業時間を早めることで、夕方子供とキャッチボールを行ったり、宿題を見たり、妻の家事を分担することができています。

仕事の面では、出勤でなければできない打合せ等と、テレワークでできる会議資料作成や議事録作成などを分けることで、効率よく業務を行うことができています。このようにテレワークを使うことによって「ワークライフバランス」を保ちつつ、仕事と家庭を両立できる新たな選択肢ができ、その人その人にあった働き方が実現しやすい職場になったと思います。

※職員の経歴は一部抜粋しています。